

2%を示し、BHC 1%粉剤では23.7%に低下し、粉煙草ではわづかに6.7%の死虫率を示したにすぎなかつた。

以上の結果より見て、昭和26年度に於ては、6~7月の越冬成虫には BHC₂~3%粉剤の反當5k使用を、8月初旬幼虫に対しては BHC₁~3%粉剤

5k、煙草粉は反當5貫の使用をすすめてきた。しかし、この方法でもかなりの薬剤費を要するので、産卵前の成虫を犠牲田や畦畔に誘致して薬剤防除を行う等の場面も追究を要しよう。又、新生成虫が薬剤に抵抗力の強い事実も解析を要する点である。
(石川農試 昭28)

BHC、DDTによる稻ネクイハムシ防除試験

望月正己・守田美典・西野二郎

本種の發生の多い現地に於て DDT 20% 水和剤、BHC 5% 水和剤を、それぞれ坪當り 12.5gr、5gr 施用した。時期は田植前と後で、3回反覆の

試験であつた。こうして、各区10株について寄生虫数を調べ、1株平均値として表すと第1表の如くである。

第1表 各區に於ける棲息密度の消長

供試薬剤	施用時期	5月30日 (田植後 2日目)	6月1日	6月3日	6月5日	6月7日
DDT	田植前	1.26	3.52	9.06	6.90	8.12
BHC	全	0.32	0.80	0.66	0.86	1.66
DDT	田植前と4日後	2.46	4.00	6.32	5.60	6.92
BHC	全	0.32	1.06	0.72	0.66	2.32
DDT	田植後2日と4日目	2.66	3.60	5.20	5.52	5.92
BHC	全	1.86	2.40	2.00	1.46	2.80
標準	—	2.46	3.00	5.60	3.32	8.72

即ち、BHCの撒布効果は著しく、特に田植直前に於てその効果が大きい。DDTでは防除効果をみる事ができず、又、他の調査によれば、葉害と思われる現象を生じた。BHCについては今後撒布量の試験を行はねばならない。

(富山農試 昭27)

水稻センチユウの侵入時期

杉山章平・飯島尙道

水稻センチユウのイネに対する侵入について、水稻の生育過程を對称としてその難易を知ること

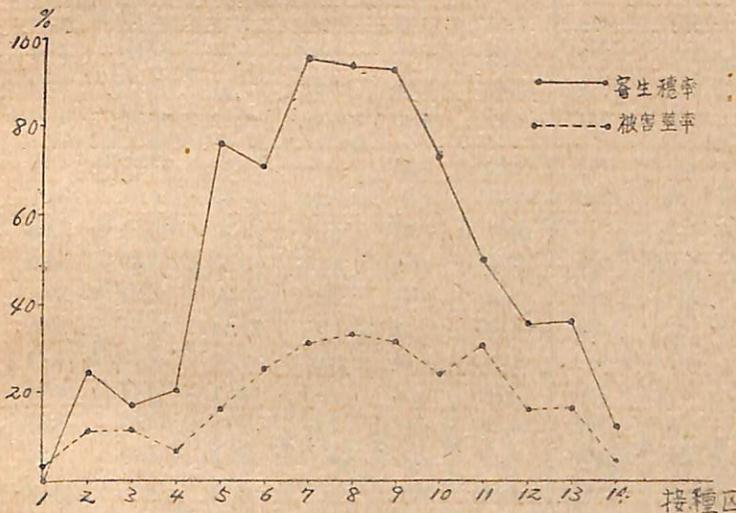
は、本種防除上重要な前提となるので、ポットによる試験を行つた。供試品種として銀坊主中生を

選び、5万分の1反ポットを用いて、1ポットに供試イネ3株を栽植し、1区を4ポットづつとして15区を設置し、合計60ポットについて試験を行った。種籾は播種前に冷水温湯消毒を行い、それを5月7日に播種し、播種後70日間を5日間隔に区分して14区とし、別に無処理の標準区1区を對比せしめた。処理区の14区は1区ごと、すなわち5日ごとに5日間づつ接種した。接種にあつては、前年度に於て本種による被害が顕著であつた籾殻を、1ポット当り5gづつ水面に撒布して沈下させた。こうして、接種の5日後に苗を水洗して他のポットに移植したのである。このような方法をとつた後、7月25日と8月13日の2回に害徴發現葉に白色エナメルを附して標記し、刈取の後に被害發見莖数を調べ、さらに、1穂中より任意に25粒を抽出して顕微鏡下に於て寄生数の調査を行った。その結果は第1表及び第1圖の通りである。

第1表 イネの生育過程別にみたセンチユウによる被害及び寄生数

接種区番号	播種後日数	莖数	被害莖数	被害率	穂数	穂寄生数	寄生率
1	1-5	176	6	3.4	167	0	0.0
2	5-10	101	11	10.8	103	25	24.3
3	10-15	100	11	11.0	101	17	16.8
4	15-20	129	8	6.2	129	26	20.2
5	20-25	160	27	16.8	143	108	76.2
6	25-30	148	28	25.6	131	102	70.2
7	30-35	157	50	31.8	132	126	95.5
8	35-40	150	50	33.3	104	97	93.3
9	40-45	160	51	31.8	141	131	92.9
10	45-50	161	39	24.2	141	103	73.0
11	50-55	155	48	30.9	108	53	49.1
12	55-60	173	28	16.1	120	42	35.0
13	60-65	177	30	16.9	128	45	35.9
14	65-70	174	8	4.5	150	18	12.0
15	無接種	138	0	0.0	135	0	0.0

第1圖 水稻の生育期別の被害莖率と寄生穂率



即ち、これらの調査結果からみると、葉に於ける害徴の發現は穂にセンチユウが寄生する率よりも少く、大体1對3の割合である。また播種後20日から55日までのイネ体に接種した場合に被害莖率も寄生穂率も比較的高まることはわかつたが、さらに、播種後かなりの長期を経過してからでも充分に侵入の機会をもつらしいことは注目すべき要点といえよう。

(北陸農試 昭28)

稻心枯センチユウによる稻被害の品種間差異

杉山章平・氣賀沢和男

北陸地方に栽培されている水稻25品種と陸稻1品種とを水田栽培とし、稻心枯センチユウの加害

に対する抵抗性の品種間差異を検定した結果を摘録すると次の如くである。